

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [三豊市立曾保小学校] 担当教諭名 [石川 英司] (全校生 21名)

相手国・地域 [メキシコ]

海外学校名 [Comunidad Educativa Yaxunah] 担当教諭名 [Lucia Nava]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	生活科・総合	メキシコについて知り、つながろう	20
	図工	壁画をえがこう	7

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	グリーン アース
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	緑の地球、そこにある自然とそこに暮らす人々のつながり確かめ合おう



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・外国に対する興味・関心が深まり、外国語活動に取り組む姿勢に積極性が加わった。 ・スカイプを通し、不十分ながらも意思の疎通ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの問題もあり、相手国とのやりとりに直接的に子どもたちが関与できなかった。 ・「物」のやりとりに、軽重が生じた。 ・スカイプに関して、言葉の問題を超克できずに、意思の疎通が図れた点はあるものの、全体として満足感を得られるものになっていない。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコに対し、外国というくくりの多くの(3人称の)国から、特別な(2人称の)国へという意識を持った。 ・互いの文化、言語を尊重する姿勢が涵養できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な(特定の)交流相手が、相互に呼応し合った具体的な活動が、国際理解教育を深めることを、具体的な体験を通して理解した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	メキシコについて調べ、発表する 自己紹介カードを作成する 学校紹介 DVD を作成する	特定の国についていろいろな観点で調べ、発表する活動自体が初めてであり意欲的に取り組めた。 自分のこと、学校について改めて考える契機になった。	総合 (生活) 7
共有 テーマ学習	10月 11月	「曾保自慢」を発信する 「緑の地球」というテーマにふさわしい校区内の情景を写真に撮り、メッセージを作成する。	テーマに即した観点でふるさとも見つめ直すことができ、メッセージにも心情の高まりが見られた。学習発表会の掲示でも好評を博し、交流に向けた児童の意識が高まった。	総合 (生活) 5
融合 メッセージ 壁画デザイン	10月 11月	壁画のデザインを決める 互いが大切にしたいポイントを図案やメッセージに表わし、擦り合わせを行う。	ふるさを象徴するものをデザインに採用するというので、何を採用するか活発な意見交換が見られた。	図工2 総合 (生活) 2
創造 壁画制作	11月 12月	壁画を制作する	基本デザインを「代表」が作成し、各学年で任された部分を丹念に描いていた。	図工5
評価 振り返り 自己評価	2月	スカイプをする 交流についてまとめる	スカイプ自体は「言葉の壁」を超克できるものではなかったが、その中でも自分の表現で相手が反応したことには手応えを感じたようである。 相手校の日本語での歌にはかなり触発されていた。	総合 (生活) 6

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	「曾保自慢」で自分が住んでいる地域の良さを改めて見つめなしているところ。
異文化の理解	A	4	スカイプで、相手校のプレゼンを見ているだけになったとき、言葉は分からずとも感じるがあったよう。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	既習事項を何とか駆使して表現する場が設定できていればと感じる。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	インターネット環境が制限され(過ぎ)ており、また内容も6年生でも理解が難しいものがほとんどである。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	3	相手校児童との(一対一に近い)対応関係が構築できていればと思う。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	小規模校で全校での取り組みになったことにより、学年・性別を超えた協働が見られた。
学習を追究する意欲	B	3	全校体制での交流であっても、どこか軸となる学年を設定する必要があると感じる。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	3	各担任に説明する必要がある、その段階で子どもが表現したいものから乖離していたものも少なくない。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	A	4	地域の人たちから認め、励まされたことで、自分の活動に対し肯定的に捉えられた。